

突然舞い降りた楽天イーグルス

2004年11月2日、50年ぶりの新球団が我がまち仙台に誕生！その名は東北楽天ゴールデンイーグルス。地元経済界は経済効果を算定する。楽天イーグルスがいかに地元にお金を落としてくれるのかと……。ある旅館の女将はいう。「これでお客が増えるわね。」

一方、プロサッカーチームと関わりの深い環境NGOやスポーツボランティアのみんなは、楽天イーグルスと何ができるだろうとわくわくどきどき。救急医療に従事しているみんなは、フルスタに集まる観客に何ができるだろうと知恵をしぼる。地域密着を最重要課題に掲げている楽天野球団にとっては、願ったり叶ったりのパートナー現る。経済効果もちろん大切。企業の地元貢献もちろん大切。でもそれってタナボタ効果でしょ？

企業・コンベンションなどの誘致も同じであるが、直接利害関係のある関係者だけで完結している場合は、なかなか街の元気につながらない。「誰かのために自分は何ができるか？」とミッションをもった方々と一緒に活動した場合は、ひとり一人が輝き、街もますます元気になる。

私のここ数ヶ月の生活パターンは、フルキャストスタジアム宮城に通うこと20数回。山形県営球場に通うこと数回。選手名鑑を手に入れ、スポーツ新聞に目を通し、会議中でも携帯で試合状況をチェックし、CSテレビで中継を見る。突然舞い降りた楽天イーグルスのおかげで、ライフスタイルが激変した人数知れず。

仙台フィルが誕生して30年。ベガルタ仙台が誕生して11年。そしてこの秋にはプロバスケットチーム「エイティナイナーズ」が産声を上げる。仙台の街に4つのプロフェッショナルが勢揃い。このチャンスを活かすのはあなた！ますます仙台を離れられなくなる私でした。

せんだい・みやぎNPOセンター理事 横山 英子

内 容

当センター4月からの事業展開
SSCSインターン活動報告、セナードサロン報告、BOOK、
らくだのブクブク、事務局活動報告、など

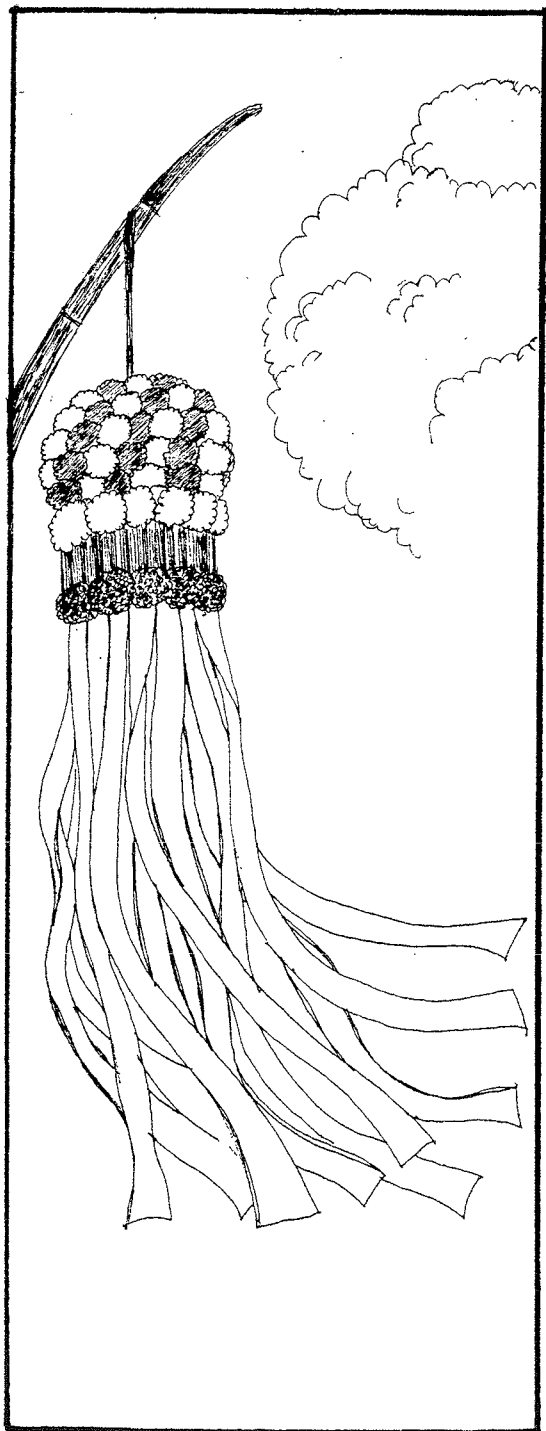


イラスト 齊藤 芳江さん

◆◆◆ 4月からの事業展開 ◆◆◆

「協働の推進」と「担い手の拡大」を目指して

せんだい・みやぎNPOセンターは、この春から右記の事業に取り組んでいます。それぞれの事業は、地域社会の多様な関係者の方々と力を合わせなければ、成果をあげられないものばかり。今年は特に、“協働”がキーワードとなった事業も増え、さらに多方面での連携が必要となります。また、NPOの担い手を市民に拡大していくことも大きな目標です。

●サポート資源提供システム

2004年度の実績としては、前年比160%増の運用を実現することができました。3つの冠ファンドと本体ファンドが順調に資金を提供することができたのも大きなポイントです。

2005年度は、寄付文化醸成のための事業の実施（ドナーの学校参照）と事業推進体制の強化、パンフレット作成や協賛・提携企業／団体の増加を目指し取り組む予定です。また、昨今の企業を取り巻く環境変化を受けて、CSR（コーポレート・ソーシャル・リ spons ibility / 企業の社会的責任）に対する取り組みも増加していますので、本システムを広くアピールして展開を図っていく予定です。

●ドナーの学校

—NPOへの寄付行為を身近なものへ—

ここでいう「ドナー」とは寄付者のことを指し、この事業は日本ではまだ馴染みの薄いNPOへの寄付行為を楽しみながら理解し、体験してもらおうというものです。

本事業は、3つの事業からなっています。その1つは、みんなファンドをより多くの方に認知していただく広報パンフレットの作成です。2つ目は、「みんなファンド・アートな募金箱コンテスト」です。これは、アートな募金箱を広く募集しコンテストを行います。3つ目は、NPO情報ライブラリーに登録していただいている団体を対象に行う、ドネーションパーティ（寄付パーティ）の開催です。ここでは、共感した団体に寄付をする寄付体験をしてもらいます。

このように寄付をされる側、寄付をする側それ

ぞれの立場で、寄付行為を楽しく体験していただくことを「ドナーの学校」という形で実施します。

このような一連の企画を多くの市民に体験してもらうことにより、寄付行為を身近なものとすることを目指します。

●せんだいCARES

今年3年目を迎える「せんだいCARES」は、年々認知度を増し、当センターの事業の枠を越え、企業人・市民・NPOからなる実行委員会が主体となって活動しています。「せんだいCARES実行委員会」とし、独立したNPOを目指し、仕組みをリニューアルし、さらにパワーアップした団体へと成長しています。これはこれまでの2年間の活動により、市民活動を応援していくことが、NPOのみならず、企業・市民にとっても重要なことであり、せんだいCARESが広がっている成果と言えるでしょう。このような各分野の実行委員がアイデアを出し合うことで、さらに幅広く深いNPOへの支援が可能となりました。

今年も11月1日から12月3日までをキャンペーン期間とし、多種多様なNPOを一斉に応援。11月5日（土）には、せんだいメディアテークにてオープニングイベントを実施し、これまで同様、サポート資源提供システムやみんなファンドの連携といった相乗効果を期待しつつ、仙台名物となるキャンペーンとなるべく、各方面との連携を更に図っていきたいと思っています。

●今年の事業など一覧 (2005.7.25現在)

事業名	事業内容
サポート資源提供システム	企業や市民と連携し、資金(みんなファンド)・物品・PCなどをNPOに提供し、新しい社会貢献を進めます。2004年度は、のべ83団体に約800万円相当の支援を実施することができました。この仕組みを一緒に応援する企業・団体を募集しています。
ドナー(寄付者)の学校	この事業は日本ではまだ馴染みの薄いNPOへの寄付行為を楽しみながら理解し、体験してもらおうというもので、「みんなファンド・アートな募金箱コンテスト」や「ドネーションパーティー」を実施します。一連の企画を多くの市民に体験してもらうことにより、寄付行為を身近なものとするを旨とします。配分金:宮城県共同募金会
NPO情報ライブラリー	NPOが社会的信頼と認知を得るためには、情報公開を積極的に行う必要があります。NPO情報ライブラリーは、NPOの情報をWEB上とファイルで閲覧できるしくみです。登録NPOも随時募集しています。
せんだいCARES	今年も11月から12月までをキャンペーン期間とし、多種多様なNPO団体を一斉に応援。11月5日(土)には、せんだいメディアテークにてオープニングイベントを実施し、さらに仙台名物となるキャンペーンとなるべく、各方面との連携を図ります。今年も秋はCARESマークであふれます!
都道府県・主要市・区におけるNPOとの協働環境に関する調査	NPOと行政の協働が注目をあびるここ数年ですが、自治体ごとの取り組み状況をしることは難しいのが現実でした。この調査では、「よい協働とは何か」「どう取り組むべきか」をアンケート調査により明確にしていきます。主催:IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]、協力:当センター
ローカル・マニフェスト推進ネットワーク東北(LM東北)	LM東北は、東北でのマニフェスト選挙の推進のため結成されました。市民が投票を行い、その結果選ばれた議員がどのように政策を遂行しているか、その過程を吟味し、評価していく必要があることを有権者である市民に伝えることが目的です。当センターではこのネットワークに参加し共に推進していきます。
コミュニティビジネス起業家セミナー	コミュニティビジネスの本質を学び、企画を実践しながらノウハウを学ぶこの事業は、今年度はさらに<入門編><起業編>の二段階から事業者育成を実施し、相談やサポートにも力をいれ、継続的な事業化支援を行います。夏から来春にかけて断続的に講座や、相談事業を行います。主催:(財)仙台市産業振興事業団、企画・実施:当センター
セナードサロン	NPO活動の課題の一つである、「ネットワークの形成」を促進するこの事業は、分野の違う市民活動団体の交流と市民が様々なテーマで気軽に語り合える広場を作っています。
行政の市民参加型事業のコンサルティング	自治体の施策を市民参加で実施する際のコンサルティングやコーディネートを行います。下記のほかにも、柴田町や多賀城市、岩手県などへ講師・コーディネーターを派遣しています。お問い合わせお待ちしております。
まち美化キャンペーン	ごみのない快適なまちづくりのため、市民、事業者、行政が協働でアレマキャンペーンを実施します。今年度は新企画「まち美化達人」になるためのお役立ちセミナーも開催。主催:仙台市、企画・実施:当センター
クリーン仙台推進員研修	クリーン仙台推進員研修では、推進員のためのグループ学習会などを開催し、各推進員が地域で活動するためのサポートをします。主催:仙台市、企画・実施:当センター
市民参加の森づくり	市民・事業者・行政が協働して、新しい時代にふさわしい緑豊かな「杜の都」を形成していく事業。市民が現在残されている森を守り、募金による土地の買取を行う「市民トラストの森」事業などを実施します。主催:仙台市、企画・実施:当センター
仙台NPO広報研究会	NPOの活動に必要な不可欠な広報力強化のため、効果的な広報戦略を研究していきます。
市民活動サポートセンター	6月で開館から丸6年になりました。2004年には指定管理者となり、施設の管理・運営を行っています。今年度は「躍動感」のある施設づくりをめざします。講座事業では、毎年恒例の人材育成講座、市民活動起業講座において、NPOいろは塾、NPO立ち上げ講座、NPOマネジメント講座など装いもあらたに効果的な講座を開催します。また、サポートセンターまつりでは今年も市民活動と市民が出会う、楽しくするための場づくりをめざして開催準備中。 さらに今年度は、市民活動を強力にサポートする3つの新事業をスタートすることになりました。 ○仙台に情報の背骨を通すプロジェクト(通称骨プロ) ○協働相談事業 ○図書販売 その他、活動の場の提供、情報の受発信のサポート、市民活動相談の受け付けなど、各種支援を継続して行います。設置者:仙台市、指定管理者:当センター

●コミュニティ・ビジネス起業家セミナー

今年はさらにすそ野を広げて、〈入門編〉と〈起業編〉を実施します。〈入門編〉では、これから事業を行う市民の掘り起こしを2回実施します。〈起業編〉では受講生が事業プランの作成と実証実験を実施することで、コミュニティビジネスの実現をサポートします。

講座の実施にあたっては、相談やサポートにも力を入れ、継続的な支援や情報提供につとめていく予定です。本年度は、このセミナー事業の主催である（財）仙台市産業振興事業団との協働事業として実施します。積極的に連携をとり相互効果を生み出していきたいと思ひます。

●都道府県・主要市・区におけるNPOとの協働環境に関する調査

昨年はI I H O E[人と組織と地球のための国際研究所]が主催し実施した調査の結果、「協働に関する制度化は進んだが、実態はこれから」という現状が確認できました。また、市民からの継続的な働きかけの重要性を感じると同時に、指定管理者制度の本格実施や特区案件の全国展開など協働も次の段階に進みつつあります。

当センターでは地域の支援センターとして今年からこの事業に協力し、共に調査を継続していくことで、協働が市民団体への委託制度にとどまることなく、市民参画の機会拡大と根付きへつながらるように努力したいと思ひます。

●ローカル・マニフェスト推進ネットワーク東北（略称：LM東北）

LM東北は、去る2月15日、マニフェスト型選挙の推進をモットーに掲げ結成されました。当センターもこの運動に賛同し、活動を進めていくことにしました。現在、北川正恭元三重県知事（現早稲田大学マニフェスト研究所長）の呼びかけにより、全国9ブロックでLMネットワークが立ち上がり、全国LM首長連盟、全国LM議員連盟が結成されつつあります。

今年4月には、選挙候補者のマニフェスト型公開討論会を開催しました。また、今後はN

POに関する施策のあり方など、有権者である市民が、自らの投票活動や議員の政策の実施状況などについてより主体的に考え、関わるためのさまざまな取り組みを実施予定です。

●市民活動サポートセンター

市民活動サポートセンターは開館から丸6年、指定管理者としては2年目を迎えました。今年4月には、センター長が変わり、新しいスタッフも加えた新体制で管理・運営を行っております。本年度はあらたに3つの事業をスタートさせます。

1.「仙台に情報の背骨を通すプロジェクト」（通称骨プロ） 主に市内の中心部に位置する8公共施設が協力して、市民と市民活動を結ぶ情報の受発信の支援を行います。骨プロ企画第1弾では、市民活動団体のイベントや講座などの案内チラシを、「骨プロチラシ(市民活動情報)」として市民に提供しています。

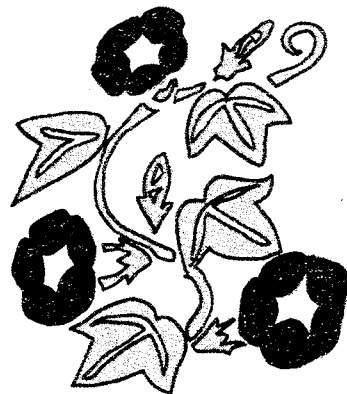
2.協働相談

仙台市では平成17年1月に市職員向けの「仙台協働本（こらぼん）～協働を成功させる手引きを作成しました。しかし、事業の企画方法、実施後の問題など、協働事業に関してはまだまだ課題が多いのが現状です。毎月1回、市担当職員と、NPOの相談に当センターと地域振興課市民活動支援室が協力して応じます。

3.図書販売 8月1日より、主に地元の市民活動団体・NPOが発行する図書を、館内で販売できるよう準備をすすめています。団体、市民双方にとってメリットのある嬉しいしくみです。

その他の継続事業も今年はよりきめこまやかに、市民活動の基礎からステップアップ編までのさまざまな講座や、市民と団体が出会う場を創出するまつりなどを効果的に開催します。

◆今年も当センターの事業は盛りだくさんです。スタッフ一同、「効果的なNPOの支援とは」をいつも考えながら事業をすすめたいと思ひます。ご支援、よろしくお願ひいたします。



SSCSインターン活動報告

昨年から今年にかけて約一年に渡り、SSCS (Small Schools for Society “NPOの現場を市民社会の小さな学校に”) のインターンとして当センターで活躍してくれた林真紀さん、前田和幸さん2人の活動報告をお届けします。

宮城大学 林真紀

本や新聞でしか知らない「NPO」の存在。社会に役に立つとは？行政にしか人々に学びを提供できないのか？企業とNPOの協働はこの地域では可能なのか？—そんな疑問をもちながら、「宮城 仙台 NPO」を検索、偶然出会ったせんだい・みやぎNPOセンターのHP。そして、SSCSインターンシップの門を叩いた一年前。NPOの現場を実感したいという願望をかなえるべく、スタートから全速で飛び出し、気がついたら、私は「せんだいCARES」と伴走してゴールを切っていました。無我夢中になりつつも、自分が今にして、知識の無いことの怖さと不安にも駆られていました。

しかし、これまでにない多くの方々との出会いにより、さまざまな言葉や姿勢に触れ、刺激を受けました。CARESに寄せる参加団体の方の思い。少ない時間をつくって企業の方が一市民として活動を続けられる理由。スタッフの方が組織の目的を確認する場を重視し、常にコミュニケーションを心がける姿勢。そして、当初の疑問は気づきになりました。特に企業とNPOに関しては、その協働が可能で、企業人が一市民として意識することで社会参加が促進され、新コミュニティができるのではないかという気がしました。636時間の期間を終えた今、新たな出発点として、得たものを自分のものにし、前向きに表現してこれからのキャリアに活かしていきたいです。

宮城教育大学 前田和幸

このプログラムに応募した動機は、学生を卒業し社会人になる前にNPOという行政でも民間でもないセクターの現場を学んでみたいと思ったからです。仕事内容としては、助成金に関わる調査や情報発信の仕事などを行いました。

私は、このプログラムに参加するまでは、社会を行政と民間の二分社会と捉え、NPOは、小さなセクターで、この二分とは、対等でない少し劣るセクターであると感じていました。しかし今は、「官」「民」「市民セクター (NPO)」の三つの社会であり、この「市民セクター」が社会に対してとても大きな役割を果たしているのだということを実感しました。むしろ「官」に対して意見したり、「民」と協力し合って社会問題に立ち向かったり。この「市民セクター」がもし存在しないとすれば、日本の社会は、「官」と「民」の責任の擦り付け合いの社会が続いていたのではないかと感じます。「市民セクター」が存在することで、「官」と「民」の間に立ち、両者の仲介になっている面ということも大きく感じました。そして、「官」と「民」にa対して、客観的に意見・提案をする「市民セクター」の重要性は、大きいと感じました。

6月でインターンが終わりNPOの仕事に関わる機会はなくなりましたが、これからは、一社会人としてNPOで学びそして感じたことをしっかりと考えて欲張らずに、また自分の中で柱をしっかりと立て、自分ができるアクションを起こして行きたいと思います。

「4億4千万円のゆくえ 宮城県内NPOへの助成金の現状を報

報告
センターサロン

6月のセンターサロンは「4億4千万円のゆくえ」と題して、当センターが行った調査をもとに、宮城県内NPOへの助成金の現状を報告し、NPOへのよりよい支援制度としての助成金のありかたについて考えました。

はじめに、当センターのインターンである前田とプロジェクトリーダーの高田から、2003年度に宮城県内のNPOへ提供された助成金の実態調査について報告がありました。その結果、総額にしておよそ4億4千万円の助成金が提供されていること、全国対象と県内対象の助成金ではそれぞれ特徴があることなどがわかりました。いずれの場合でも、助成プログラムに沿った応募をするなど、応募する側の力量も問われることを再確認しました。

その後の意見交換では、参加者から活発な意見が出されました。今回、助成する側、受ける側、支援する側から参加していただいたことよって、それぞれの立場の活発な情報交換が出来たことは大きな成果です。もっと積極的に情報交換を行うことが、より良い助成事業の開発につながるのでないかという意見も出され、有意義なサロンとなりました。

(小松州子)

BENYのはみ出しエッセイ ◆らくだのブクブク◆ vol.16

ご近所食堂

常務理事・事務局長 紅邑 晶子

若いスタッフとわたしは、いま、正しい食事をするのが共通課題です。「規則正しい、バランスの取れた食事」。わかっているけれど、できない。だから問題なわけです。仕事に追われ、料理をするにも買い物する時間がなく、「規則正しい・・・」という条件は、なかなか実現が難しいです。

ところで、近頃の食卓状況はどうなのでしょう。共働きの家庭、一人暮らしの高齢者や障害者、子育て中の母親、シングルマザー、シングルファザー。それぞれの朝食や夕食はどうなっているのでしょうか？お料理をしないで外食したり、コンビニ弁当やインスタントもので済ませていたり。一人きりで食事していたり。そんな状況が特別ではないことになっているように思います。

そこで、思いついたのが家庭の代わりに地域の人たちが地域の人たちのために経営する

「ご近所食堂」です。もちろん、おいしい食堂であることは絶対条件です。ご近所食堂のサービスには、一人暮らしの高齢者のところにお店の人やご近所さんが迎えに行きます。場合によっては、一緒に食事をする人付きで出前もします。人気が出て遠くからお客さんが来るかもしれないので、ご近所割引というのがあります。さらに、託児所や宅老所の機能もあると便利です。家から歩いて、5分から10分以内にあることも条件にしたいですね。ワゴン車になっていて、移動式の屋台食堂というのもありかな。7月30日は、何丁目の〇〇駐車場で何時から開店とか。こういう、あったらいいナが、コミュニティビジネスの種だったりするんですよ。(実はかなり真剣に、事務所の近くにこんな食堂ができないかなあと念じております！)

BOOK

『現場主義の人材育成法』

関 満博 著

ちくま新書 発行

735円(税込)

人材育成は、継続性を持って組織的に活動が必要とする組織・グループであれば企業や行政であっても、そして社会の課題に対して自発的に活動するNPOであっても避けては通れない組織運営の要素です。本書は筆者が関わった「現場」のエピソードからなり、学校・仕事場・地域でのように人を育てていくのか、その方法論ではなく「人材育成」「後継者育成」の本質について論じられていて、人材育成や後継者育成に取り組む方には是非読んでいただきたい本です。

この本の中で、私が印象に残っているのは、第3章「地域」の「現場」が人材をつくる」で「反発のエネルギー」についての部分です。一つの成功には一つの世代の「怒り」が背景にあり、その「反発のエネルギー」を蓄え、必死の挑戦を重ねて到達するが、人材育成において一番の難関は次世代との「思い」の差があり、それを次世代に抱かせるにはどうするかが課題になるというものです。創設者が引退すると活動が衰退する組織をよく目にしますが、まさにこの「思い」を引き継ぐことの難しさを感じさせます。

著者は、終章で人材育成について「自分で自分を『勇気』付けていく」ことが基本であると言っています。人材育成というと、経験者が目下の人にノウハウを与えていくイメージがちですが、人材育成の本質はノウハウの伝授よりも「自身を勇気づける」ことであり、後継者育成は「思い」の引継ぎなのだ、私はこの本から感じました。

(八田 篤司)

活動
報告事務局活動報告
(4/21~6/21)

■事務局/自主事業関連

- ・ 評議員会 (4/26)
- ・ センター会議 (4/27・5/25)
- ・ 仙台市市民活動サポートセンター全体ミーティング (5/6・16・6/6・17)
- ・ 大町全体ミーティング (5/11・6/8)
- ・ みやぎNPO夢ファンド公開コンペ「人材育成プログラム」(5/14・15 加藤・紅邑・高田)
- ・ せんだいCARES「実行委員会」「キャプテン会議」(5/18・6/1・10・14 紅邑)
- ・ 経営会議 (5/19・6/20)
- ・ 理事会 (第72回:5/20 第73回:6/21)
- ・ SSSCS「合宿」「面接」「入校式ならびに終了報告会」/主催:(特)市民社会創造ファンド(5/14・15・5/26・6/19 紅邑)

■NPO/企業関連

- ・ コミュニティ再生研究会/主催:東北開発研究センター(4/24・25・5/27・28 加藤)
- ・ ブラッシュアップセミナー研修検討合宿/主催:(特)日本NPOセンター(5/12・13 紅邑)
- ・ NPO支援センターやボランティアセンターの支援力強化のための2日間「7つのチカラ・無限の一步」/主催:公益・非営利支援センター東京(5/16・17 加藤)
- ・ 東北公益文科大学大学院CB起業論(5/21・6/4・18 加藤)
- ・ 公開セミナー「利用する市民から、運営する市民へ～公共施設の市民運営を考える」/主催:協働→参加のまちづくり市民研究会(5/29 加藤)
- ・ NPO/NGOに関する税・法人制度改革連絡会総会(6/6 加藤)
- ・ (特)日本NPOセンター総会(6/6 加藤)
- ・ 冠ロータリークラブ例会(6/8 加藤)
- ・ MISA総会(6/9 遠智)
- ・ (特)レスパイトハウス・ハンズスタッフ研修(6/10)
- ・ 東北放送番組審議会(6/10 紅邑)
- ・ 最上川リバーツーリズムセミナー/主催:最上川流域観光交流推進協議会(6/17 遠智)

■自治体関連

- ・ 市民の森講座(4/23・5/15・6/19 青木・佐藤・本田)
- ・ 太白区まちづくり活動助成事業評価委員会(4/23 遠智)
- ・ 宮城県遊休施設等の有効利用によるNPOの拠点づくり事業運営委員会(4/28・6/17 青木)
- ・ 仙台市社会教育委員の会議(5/10 紅邑)
- ・ 地球環境基金評価専門委員会(5/13 加藤)
- ・ 平成17年度監督者研修「NPO(市民との協働について)」/主催:宮城県市町村職員研修所(5/18・25・6/1 加藤)
- ・ 仙台市市民公益活動促進委員会(5/19 紅邑)
- ・ セミナーおよびワークショップ「地域における市民活動支援システムとは?」/主催:水沢地方振興局(5/19・6/9 加藤)
- ・ 「アレマ隊オープン会場」/主催:仙台市(5/22 紅邑)
- ・ 平成17年度係長研修「市民から見た行政・パートナーが期待する行政」/主催:仙台市職員研修所(5/23 加藤)
- ・ みやぎNPOプラザ入居者審査員(5/24 紅邑)
- ・ 平成17年度社会教育施設職員研修「新任職員研修会」/主催:仙台市教育委員会(5/25 青木)
- ・ 仙台市社の都の市民環境教育・学習推進会議委員会(5/27 遠智)
- ・ 宮城県NPO活動促進委員会(5/30 加藤)
- ・ 仙台市市民活動サポートセンター/人材育成「NPOいろは塾」(5/31)
- ・ 柴田町まちづくり委員会学習会(6/7 紅邑・真壁)
- ・ 「協働成果の発表会」/主催:高知県(6/15 加藤)
- ・ 「豊中市まち美化フォーラム」/主催:豊中市(6/16 加藤)
- ・ みやぎNPOプラザ運営評議会(6/21 加藤)

■相談、ヒアリング関連

- ・ 経営相談(5/24 加藤)
- ・ 視察:さいたま市議会(6/1)
- ・ ヒアリング:自治大学(6/2)
- ・ ヒアリング:仙台市(6/10)
- ・ ヒアリング:明治大学経営学部(6/17)

サポート・ご協力 ありがとうございます

●平成16年度会員 (敬称略・順不同、2005年4月21日～6月20日)

(新規会員)

NPO協働体FJ I、大久保正司、佐藤令子、渡嘉敷頼子

(継続・正会員)

白石・みやぎ環境を考える会、岡本あき子

(継続・準会員)

石田春子、高橋美加子

●企業・団体協力 (五十音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて) 富士ゼロックス(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

2004年度総会は
9/3 (土)

◆NPO経営相談

日程：7/25、8/25、9/21

時間：13：00～17：00

会場：せんだい・みやぎNPOセンター

相談料：2500円

(1時間単位、会員500円割引)

予約制です。まずはお電話を！

担当：青木

募集・講座紹介

◆コミュニティ・ビジネス

起業家セミナー <起業編>

日程：9/6、9/13、11/8、11/29

その他、カウンセリングや交流会もあります

時間：18：30～21：30

場所：Nestせんだい会議室

参加費：無料 (テキスト代別途)

申込み締切：8/24：17時

定員：20名 担当：遠藤 (智)

今年も会員の継続をお願いいたします

発行：特定非営利活動法人
せんだい・みやぎNPOセンター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F

tel 022-264-1281 fax 022-264-1209

E-mail minmin@minmin.org

http://www.minmin.org/

会費・寄付はこちらにどうぞ！

郵便振替：02260-3-16325

加入者：せんだい・みやぎNPOセンター

編集スタッフ：遠藤智栄、真壁さおり、門間裕美

■岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15～20分



みんな編集後記

■今回からみんな編集体制がかわり、真壁さんと門間さんという強力なメンバーが加わった。Macでの編集も門間さんに。年代ものになってきたMac君、もうしばらくがんばってね！！新担当に応援メッセージお待ちしております。(遠藤)

■我が家の家庭菜園の野菜がぐんぐん伸びて、毎日その恩恵を受けています。とれたてのジャガイモと玉ねぎのみそ汁、ナスときゅうりの酢味噌和え、新鮮サンチュのサラダなどなど。おてんとうさまに感謝カンシャの夏が始まりました。(真壁)

■最近の気分転換は、外でご飯を食べることです。レストランで外食ではなく、公園などでお日様にあって風を感じながらご飯を食べると、それだけで気分が良くなっていきます。私自身も光合成しているのかな！？(門間) ★9月の総会で目にかかりましょう！